



祇園地区で開催された「福祉の職場見学・体験ツアー」(8面に関連記事)



CONTENTS

- P2 タイの肢体不自由児施設等との交流再開
- P3 くじら島でデイキャンプ
- P4 花火600発楽しむ
- P5 ひらたで6年ぶりに夏まつり
- P6 日韓の中学生と交流

旭川荘 だより

vol.
275

2023.9.1 発行



SDGsフェアでイノシシ革の製品をPRする
吉備ワークホームの職員(8面に関連記事)

発行/社会福祉法人 旭川荘
〒703-8555 岡山市北区祇園866
TEL 086-275-0131 FAX 086-275-5640
<https://www.asahigawasou.or.jp>



就任2カ月 各施設を訪れて

理事長 神崎 晋

お盆を過ぎても酷暑の夏が続いています。記録的な夏の暑さのために、台風は勢力を弱めることなく我が国を襲い、日本の各地に多くの被害を与えています。今まで経験したことのない酷暑と激しい降雨は、我が国が温暖な温帯気候から亜熱帯(熱帯)気候へと変わりつつあることを示しています。本年5月に5類相当に引き下げられた新型コロナウイルス感染は、危惧されたように感染者数が増加しつつあります。荘内では重症者がいないのが幸いです。

旭川荘は83の施設を持ち、それらは本部がある岡山市の祇園地区をはじめ、平田、西大寺、高梁市、真庭市、瀬戸内市、備前市など岡山県各地に加えて、愛媛県鬼北町にも分布し、それぞれの地域の医療福祉を支えています。

私は理事長就任後、新井副理事長らとともに約2カ月かけて主要な施設はすべて訪問させていただきました。その際に、多くの職員が使命感と情熱をもって日々の業務に取り組んでいることが確認できました。新型コロナ

感染、職員の不足、あるいは財政的に厳しい状況の中で、安全を確保し、質の高い医療福祉を提供するために、それぞれの施設で最善を尽くしていることに感銘を受けました。

一方、多くの施設で、建築後すでに半世紀以上を経て建物が老朽化し、建て替えが必要という課題に直面しております。時代の変化とともに、施設(建物)への要求も変わっています。時代のニーズを取り入れながら、利用者様および職員にとってより良い建物に建て替えて提供したいと思っております。

物価や賃金の高騰、職員確保の困難さなど、これからの道のりは容易ではありません。しかしながら、私たちはその中で未来の可能性を見出し、困難を乗り越えていく決意を持ち続けたいと思います。皆さまのご理解とご協力をいただきながら、より良い医療福祉を提供するために努力してまいります。

タイの肢体不自由児施設等との交流を再開

末光茂前理事長らが8月8日から11日までタイ王国を訪問し、旭川荘と縁の深い医師のファンファ・クナドーン先生らと肢体不自由児施設や病院などを視察するとともに、交流の再開を誓い合いました。

タイを訪問したのは、末光前理事長のほか、療育・医療センターの青木清診療副部長、日中・アジア医療福祉研修センターの小幡篤志所長で、旭川荘関係者がタイを訪問するのは2017年以来となります。

一行はまず、1988年から2005年まで開催された津山国際車いす駅伝競走大会にタイ代表チームを毎年引率して来られ、多くの旭川荘職員と交流のあったクナドーン先生が顧問を務める肢体不自由児福祉財団を視察。同財団は約200人の肢体不自由児が入所・通所する、福祉施設と教育機関が一体となった施設で、これまで3人の職員が旭川荘に研修に来ています。視察する中で、リハビリの提供方法などについて旭川荘のアドバイスを求められたことから、今後の交流の継続を約束しました。

続いて一行は、クナドーン先生が長年勤めているプラモンクットクラオ病院のリハビリ科を訪問。同科では

若い医師の教育に力を入れており、これまで障害者や高齢者の総合的なリハビリを学ぶため旭川荘に2人の医師が研修に来ています。今後も研修を受け入れてほしいと要望があり、協議を進めることになりました。



肢体不自由児施設を視察する一行

一行はこのほか、バンコク郊外で開催された国際リハビリ工学学会にも参加。療育・医療センターの取り組みに関するポスター発表を行い、各国からの参加者と意見交換しました。

津島児童学院 くじら島でデイキャンプ Future for Children FELLOWS財団が支援

津島児童学院は、公益財団法人 Future for Children FELLOWS財団様にご支援いただき、8月17日に貸し切りできる玉野市沖の無人島「くじら島」でデイキャンプを実施しました。

今回の目的は「思いっきり楽しめる体験活動を提供し、子どもらしく、自由にのびのびと気持ちを表現できる時間をつくる」こと。コロナ禍で思うように体験活動ができなかった子どもたちを中心に、何度もミーティングを重ねました。

キャンプ当日はあいにくの雨模様。希望と不安が入り交じる中、子ども7人と職員7人が倉敷市の琴浦からプライベート船に乗り込み、くじら島への10分間の船旅を満喫しました。くじら島につくと雨風が強く、真夏なのに肌寒さを感じる天候。まずはBBQ(岡山県産のご当地



カヌーで沖へ

食材)を楽しみながら暖をとることにしました。皆、料理が出てくると自然と笑顔に。「すごい豪華」「これ美味しいよ」と子ども同士で盛り

上がり、「苦手だけど食べてみる」とチャレンジするなど、食育にも繋がる経験ができました。

午後からは、皆の思いが通じたのか、雨も

やみ気温もぐんぐん上昇。走って浜辺に行き、海水浴やSUP・カヌー体験に取り組みました。職員と息を合わせてカヌーを漕いでいるかと思いきや転覆し笑顔を見せしている姿や、浮き輪に揺られリラックスしている姿、海の中で子ども同士楽しんでいる姿が見られました。

子どもたちから「初めは不安だったけど、いろいろなことができ楽しかった」「また行きたい」などの感想が聞かれました。不安もある中、新しいことに挑戦した体験活動を通し、心身ともに一回り成長したように思います。

このような機会を作っていただいたFuture for Children FELLOWS財団様に改めて感謝申し上げます。

(津島児童学院 小松原誠二)



コースター作り

地域交流再開へ 寄せ植え教室初開催 松山ワークセンター

松山ワークセンターで7月8日、「第1回地域交流イベント 寄せ植え教室」を開催しました。

コロナ禍で地域の方との交流も途絶えていましたが、少しずつでも交流を再開し、事業所の活動をもっと知っていただく機会になればと初めて企画。今回は松風寮のグループホームの世話人さんと、松山ワークセンターと望の丘地域生活ホームの利用者さんなど、計18人が参加しました。

当日は、園芸装飾技能士の資格を持つ清水俊佑支援員が講師を務め、花の特徴、選び方、レイアウト、植え方について説明。参加者は松山ワークセンターのハウス内で栽培している花苗の中から好みの苗を選び、質問しながら植木鉢に植えていきました。

自分で寄せ植えをするのは初めてという世話人さんからは、「寄せ植えって、ただいろんな花を植えるんじゃなく、奥が深い」「毎月教室をやってほしい。次回は友人を誘いたい」などの感想をいただきました。また、松山ワークセンターの利用者さんたちも土の運搬などのお手伝いをしてくださいました。

寄せ植え教室と合わせて実施した花苗の即売会に



アドバイスを受けて寄せ植えに挑戦する参加者

は近隣の方も買い物に訪れ、みんなで和気あいあいと楽しい時間を過ごすことができました。

花などの植物は、見るだけでも癒やされますが、実際に花や土に触ることは心のリフレッシュや癒やしの効果があるそうです。今秋には秋冬の花苗を使い、内容も変えて地域の皆さんと交流できるイベントを企画したいと考えています。

(松山ワークセンター 宮崎暁弘)

夏まつり旭川荘 花火楽しむ Zoom 配信も

第41回夏まつり旭川荘が7月27日に開催され、利用者が夜空に打ち上がる花火を楽しみました。

新型コロナからの夏まつり再開の第一歩として花火を上げた昨年に引き続き、今年もアトラクションや夜店、盆踊りなどは実施せず、花火のみの開催となりました。

花火の玉数は昨年より100発多い600発。午後8時に開始の合図の花火が上がった後、20分ほどの間に次々と打ち上げられ賑やかに夜空を彩りました。



打ち上げ場所から近い祇園地区では、利用者が施設の庭や屋上、屋内から窓越しに花火を観賞。時折「わー、きれい」「大きいね」などと歓声を上げ、夏の風物詩を満喫しました。



また、今年初の試みとして、荘内の施設向けに花火の様子をZoomでライブ配信。直接花火を観ることが難しい利用者にもテレビ画面などを介して花火の映像を楽しんでもらいました。

また、今年初の試みとして、荘内の施設向けに花火の様子をZoomでライブ配信。直接花火を観ることが難しい利用者にもテレビ画面などを介して花火の映像を楽しんでもらいました。

岡山操山中生徒が手づくりうちわ寄贈

岡山県立岡山操中学校(岡山市中区浜)の生徒の皆さんから7月24日、夏らしい絵柄を描いた手づくりのうちわを約360枚寄贈していただきました。

同校の課外活動グループ「SOZAN国際塾」が中心となって全校生徒に呼び掛け、1人1点作製。うちわには印字された「祭」の文字とともに金魚や花火、かき氷、スイカなどの絵柄が優しい色合いで彩色されています。

この日は、国際塾を代表して3年生の松本奈々さんと金世理さん、引率の板野友貴子教諭らが旭川荘を訪れ、夏まつりの実行委員長の秋山哲生常務理事らにうちわを手渡しました。秋山常務は「毎年素晴らしいうちわをいただけることに感謝します。うちわで利用者も夏を感じています」とお礼を述べ、生徒たちは「私たちからの気持ちを受け取り、使ってもらえると嬉しい」「手に取った人に喜んでほしい」と話していました。



色彩豊かなうちわ



うちわを手に持つ生徒ら

同校からの寄贈は2014年に始まり、毎年夏まつり旭川荘の開催時期に合わせて行われています。

いただいたうちわは祇園地区の施設へ配られ、夏まつりの当日には、うちわを手に涼をとりながら花火を観賞する利用者の姿が見られました。

ひらたで6年ぶりに夏まつり 夜店とアトラクション楽しむ

6年ぶりの開催となる「2023ひらた旭川荘夏まつり」が7月20日に行われ、利用者が夜店やアトラクションなどを楽しみました。

ひらた旭川荘では毎年7月に、利用者家族や地域ボランティアの協力を得て盆踊りをメインにした夏まつりを開催していましたが、2018年は西日本豪雨災害の被災者支援のため、2019年は雨天のため中止に。さらにコロナ禍により、2020年から3年続けて開催を見送っていました。今回は盆踊りを行わず、利用者のみを対象に、規模を縮小したかたちで夏の行事を復活させました。

会場のふれあい広場には、午後5時の開幕に合わせてのぞみ寮、わかば寮、かえで寮の利用者が職員とともに三々五々集結。ひらたの市に参加する20団体が



広場を囲むようにテントを並べ、焼きそばやフランクフルト、カレーなどの軽食や、クレープ、マカロン、杏仁豆腐などのスイーツ、手作り雑貨などを販売しました。

利用者は小グループに分かれて夜店のグルメを味わったり、お目当ての雑貨を選んだり、久しぶりの夏まつりを満喫。開放感に浸っていました。また、ステージでは和太鼓グループによるダイナミックな演奏や花火などのアトラクションもあり、お祭り気分を盛り上げました。



南愛媛療育センター夏まつり 4年ぶりに地域のボランティアとも交流

南愛媛療育センターの夏祭りが7月30日に開催されました。4年ぶりに鬼北町商工会から12人のボランティアの方々が参加し、おもちゃすくいやくじ引き等の工夫を凝らした出し物を考えていただき、利用者の皆さんも大変喜ばれていました。

当日の出し物については、事前に支援課職員が商工会婦人部長さんと綿密に打ち合わせをして、情報共有、情報提供を行いました。例年は、屋外のテントでたこ焼きを焼いてもらっていたのですが、暑い夏の日中に実施するので食中毒のリスクや、ボランティアスタッフの熱中症対策も考慮しつつ、今年は飲食の提供は避けて、タブレット端末をタッチすることでくじが引けるような試みを屋内で実施していただきました。また、短期利用者の方も参加し、入所の方と和やかに交流する様子が見られました。

会場では職員が綿菓子やプリンなどを提供。プロジェクターを使用

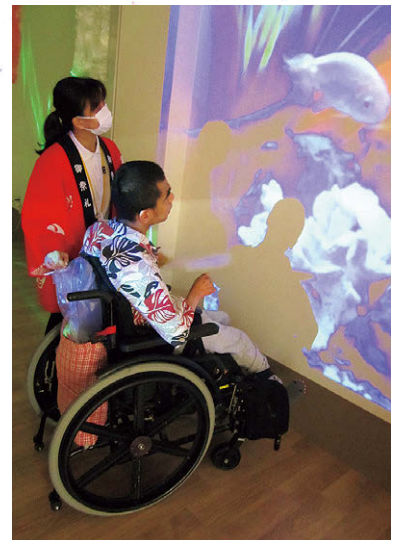


タブレット端末でくじを引く利用者

した花火や金魚すくいの疑似体験なども用意し、その中で感染対策に留意しながら楽しんでいただくことができました。と思います。

残念ながら、ご家族の参加はできませんでしたが、ボランティアの皆さんに来ていただいたことで利用者の皆さんも非日常の雰囲気を楽しむことができ、素晴らしい地域交流の場となりました。

(南愛媛療育センター 福田愛水子)



プロジェクターで壁に投影された金魚をすくう

迫力あるコーラス堪能 旭川敬老園 岡山大学グリークラブが訪問演奏

岡山大学グリークラブの皆さんによる訪問演奏会が7月16日、旭川敬老園の地域交流ホールで行われ、敬老園やグループホームはなみずきの利用者が迫力のあるコーラスを楽しみました。

今回の演奏会は、同グリークラブから敬老園に打診があり、実現しました。新型コロナウイルス感染症の影響下では対面でのイベントも非常に限られていましたが、同感染症が5類に移行したことに合わせ、敬老園でも十分な感染症対策を行いつつ、イベントを徐々に再開して

います。

この日は同グリークラブの52人が訪れ、ホールに集った36人の利用者に向けて「川の流れるように」や「木綿のハンカチーフ」「春よ、来い」を披露。歌を聴きながら涙ぐまれる利用者の方もおられました。また男性団員のみがアカペラで歌う「宇宙戦艦ヤマト」はその迫力に驚かされました。演奏終了後、利用者からすぐに「アンコール」の声が上がり、約30分間の演奏会は大盛況のうちに終了しました。



歌声を響かせる岡山大学グリークラブの皆さん

岡山大学グリークラブは、岡山県下最初の大学生合唱団として1953年に結成。男女合わせ約100人の現役団員を有する混声合唱団で約70年間欠かさず行っている定期演奏会を軸に、各種コンクールへ出場したり、合同演奏会を行ったり、依頼演奏を受けたりするなど精力的に活動されています。終了後、団員の方は「利用者の方々が曲を口ずさんでいたり、笑顔で手を振ってくださったり、こちらも楽しく歌うことができました」と話されていました。

(旭川敬老園 常国修治)

日韓の中学生と歌やダンスで交流 旭川学園

リバーサイドチャーチ岡山教会(岡山市北区万成東町)と韓国サラン教会の中学生たちが7月29日、旭川学園を訪れ、学園の子どもたちと歌やダンスで交流しました。

岡山教会ではコロナ禍前に、慰問のため荘内の他施設を訪れていましたが、学園との交流は今回が初めて。日本の中学生13人と夏休みで来日していた韓国の中学生28人を含め、教会関係者計65人が来園しました。会場の学園旧館プレイルームには学園の子どもたちと職員が作製したウェルカムボードを準備。壁面にはハングル文字を交えた装飾をして一行を迎えました。

交流会では、最初に旭川学園ダンスクラブのメンバ



音楽に合わせて踊りを披露する学園ダンスクラブのメンバー

ーが歓迎の気持ちを込めて「つばめ」「ジャンボリーミッキー」を披露。次に中学生のみなさんがダンス・ハンドベル・劇などのステージ発表を行



韓国の伝統舞踊を舞う中学生たち

い、きれいな韓国の衣装を身に着け、民族楽器を使った伝統舞踊では、会場全体が大いに盛り上がりました。最後の合唱では中学生全員で「手をつないでいこう」という讃美歌を気持ちを込めて歌い、子どもたちも真剣に聞き入っていました。

交流会後、学園の子どもたちは「劇が印象的だった」「かっこよかった」などと話し、中学生からは「子どもたちのダンスを見て感動した」「今回はステージ発表が中心だったので、次は直接触れ合う交流がしたい」などの感想が聞かれました。お互いに思い出に残る交流会となったようです。

(旭川学園 川本大輔)

ペカンの木育てよう クッキーの商品化も たかはし障害者支援センター

たかはし障害者支援センターはこのほど、施設の正門前の花壇にペカンの苗木を植えました。ペカンは北米原産のクルミに似たナッツで、旭川荘設立趣意書(1954年発表)にはモデルとする田園都市建設のイメージとして街路樹にペカンを植えることが記されるなど、旭川荘とゆかりの深い樹木。「法人設立70周年に向け、当時の関係者の思いを振り返りたい」としており、ペカンナッツを使ったクッキーの商品化も計画しています。



花壇に植えられたペカンの苗木=6月5日

同センターでは昨年末にポットに入った苗木を2本購入。冬の間は植木鉢に植えてハウスの中で育ててきました。暖くなるのを待って、4月に苗木を花壇に植え替え、風雨などで倒れないよう支柱を設置。春先には約30センチほどだった苗木は、8月中旬に

は高さ約95センチまで成長し、四方に青々とした葉を広げています。

ペカンナッツのクッキーは、同センター内の松山ワークセンターが運営する菓子工房 Cotoli が担当。味や栄養価の面でも自信をもってすすめられるクッキーにしたいと、

岡山県立大学保健福祉学部栄養学科に協力を依頼。8月10日には首藤恵泉准教授と学生2人が菓子工房を見学を訪れるなど、商品開発に向けた交流をスタートしています。

ペカンは苗を植えてから実がなるまでに5年から10年はかかるとされるため、商品には市販のペカンナッツを使用する予定ですが、松山ワークセンターでは「苗木を大切に育てて、将来的には収穫したナッツ使ってクッキーを作りたい」と期待を膨らませています。



夏の間95センチまで成長した=8月29日

リレーコラム

強い思いに根負け

この夏、我が家に新しい家族仲間入りしました。末の息子の願望で飼いだめたミックス犬の「なつ」です。

以前からずっと末の息子から犬を飼いたいとお願いをされていましたが、日中は仕事に学校、土日も子どもたちのスポーツ等で家を空けることが多いため、うちにきてもかわいそうだという理由で断り続けていました。涙する息子に対してどれだけ強い気持ちなのかを量るために、1カ月息子にミッションを与えました。

①まず自分のことができない子には生き物は飼うことはできない。

②家をきれいにしておかないと子犬は何でも食べてしまう。この2つを伝え、様子を見ることにしました。

すると次の日、私が仕事から帰ると玄関のくつがきれいに並べられ、息子がキッチンから手を拭きながら現れ「おかえりー、今皿洗い中!」と迎えてくれました。どうやら張り切って家のことをしている様子。3日坊主どころか、毎日続き、私が普段片付けられていない棚などもピカピカに!

1カ月後、息子の強い気持ちを受け止めて、犬を探し始

めました。やっとお盆前に我が家に生後2カ月の子犬がやってきて、家族みんなメロメロになっています。息子のかわいがる姿をみて微笑ましくも、私自身、子犬を飼うのは30年ぶりで日々奮闘中です。

思えば私も、小学校の時から犬を飼い始め、私の胸の中には今は亡き飼い犬と共に過ごした楽しい思い出が詰まっています。息子の胸にもこれから成長とともにたくさんの思い出が刻まれることと思います。

(広報委員 藪田善子)



散歩中の息子と「なつ」

旭川荘理事会報告

令和5年度第3回理事会を開催しました。(書面開催) 主要人事の議案について、理事及び監事全員の同意等により、原案どおり承認されました。

◎異動(令和5年9月1日付)

神崎 晋 旭川荘療育・医療センター顧問医師
旭川児童院顧問医師

赤澤 啓史 旭川荘療育・医療センター院長
旭川児童院院長
(兼) 旭川療育園園長

福祉の職場見学・体験ツアー 小中学生8人が来荘

「福祉の職場見学・体験ツアー」(主催:岡山県、県社会福祉協議会)が8月16日に祇園地区で開催され、小中学生が職員や利用者との交流を通じて福祉について理解を深めました。

参加者は小学6年から中学3年までの8人。ツアーには旭川荘厚生専門学院の学生4人と教員がサポート役として同行しました。

朝、貸し切りバスで来荘した一行は、吉備ワークホームの利用者が働く印刷や箱折りなどの作業場を見学。染色されたイノシシ革の端切れの中から好きな色を選び、オリジナルのキーホルダーを作りました。

次に訪れた竜ノ口寮では、車いすの介助のほか、シートリフトを使った移動介助のコツについて学びました。その後、両施設の利用者と卓球バレーで対戦。試合が進むにつれて白熱したラリーが続き、大いに盛り上がりました。

午後はグループに分かれて、体験で感じたことなどを付箋に書き出して模造紙に貼り、それぞれ発表しました。また、福祉の職場を選んだ理由、仕事のやりがいなどの質問に職員が答え、参加者は熱心に聞いていました。



真剣な表情でキーホルダー作りに取り組む参加者

初のSDGsフェアに参加 吉備ワークホーム イノシシ革の製品作りをPR

岡山県内の企業・団体がSDGs(持続可能な開発目標)の実現に向けた取り組みについて発信する初の「おかやまSDGsフェア2023」が8月2日、3日に岡山コンベンションセンター(岡山市北区駅元町)で開催され、吉備ワークホームが廃棄されるイノシシ革を有効活用した製品作りをPRしました。

会場では、145の企業・団体がブースを構え、環境保護やリサイクル、脱炭素などへの先進的な活動を紹介。吉備ワークホームのブースでは、イノシシ革を加工したペンケースやネームホルダーのほか、革の端材に至るまで余すところなく活用したアクセサリやキーホルダーなども並べ、訪れた人たちの関心を集めていました。



革の端材を使ったワークショップも開催。子どもたちにも好評だった

愛育寮で結び織りワークショップ 小学生が壁掛け作る

愛育寮の織り工房で小学生を対象にしたワークショップが8月1日と3日に4年ぶりに開催され、各日5・6年生が3人ずつ、計6人が参加しました。

ワークショップでは小さな木枠に糸を張った織り機を使って壁掛け作りに挑戦。まずは利用者にお手本を見せてもらい、大きな織り機で縦糸に糸を結ぶ織り方を練習し、次に自分でデザインした図案を見ながら糸を選び織っていきます。根気が続かず時々手が止まる子どもたちに、利用者やスタッフが見守りや励ましながらサポート。こつこつ頑張り、半日かけてオリジナリティに溢れる壁掛けが完成しました。

終了後、子どもたちは出来上がった作品を手に満面の笑顔。「本当に嬉しい」「楽しかった」「来年も作りたい」などの嬉しい感想が聞かれました。

(愛育寮 岡野範子)



かわいい作品ができたよー

旭川荘ごよみ SCHEDULE CALENDAR	
9月	1日~11月28日 アートギャラリー展2023秋 アートギャラリー 26~27日 旭川荘ふくのいち(川崎医科大学附属病院) ... 旭川荘関連施設 ☆旅行・敬老の祝い ~各施設
10月	11日 令和5年度第4回理事会 旭川荘 18日 評議員選任委員会 旭川荘 23日 令和5年度第2回評議員会 旭川荘 28日 第16回環境福祉フェア 旭川荘 ☆運動会・遠足・旅行・ハロウィン行事 ~各施設

編集後記

表紙と本面で紹介した「福祉の職場見学・体験ツアー」。4年ぶりに実施した、子どもたちと利用者さんの卓球バレー対戦では、マスク越しではありませんが、互いに笑顔で交流する姿が印象に残りました。ツアーはコロナ禍のためオンラインで開催した年もありましたが、現場の雰囲気を感じ、より理解を深めてもらうには人と人、対面での交流が欠かせません。コロナを経て今秋、いくつかのイベントが再開します。また、たくさんの笑顔に出会えますように。

(広報委員 難波久江)